

0001

4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

リスクアセスメントの最初の段階として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業に潜む危険性又は有害性を洗い出して特定する。
- イ．保護具だけを先に購入する。
- ウ．災害発生後に原因だけを調べる。
- エ．危険性を確認せず作業時間だけを短縮する。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。危険有害性の特定が出発点である。
- イ：不適切。危険源の特定・評価が先である。
- ウ：不適切。予防的に実施する。
- エ：不適切。リスクの内容を把握できない。

総合解説：リスクアセスメントは危険有害性の特定、リスク見積り、優先度設定、低減措置、記録の流れで行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0002

4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

一般的なリスクの見積りで組み合わせて考える要素として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業員の氏名と年齢だけ。
- イ．災害の重篤性と発生可能性。
- ウ．工事金額と利益率だけ。
- エ．現場面積と建物用途だけ。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。個人属性だけで評価しない。
- イ：適切。重篤性と発生可能性を組み合わせてリスクを見積もる。
- ウ：不適切。安全リスクの基本要素ではない。
- エ：不適切。それだけではリスクを評価できない。

総合解説：リスクの大きさを比較可能にし、対策の優先順位を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0003

4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

リスク低減措置の優先順位として、最も適切なものはどれか。

- ア．個人用保護具を常に最優先とする。
- イ．危険源を残し注意喚起だけで終える。
- ウ．危険な作業の廃止・変更など本質的対策を、保護具より優先して検討する。
- エ．法令上必要な措置もリスクが低ければ省略する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。保護具は他の対策で残るリスクへの対策である。
- イ：不適切。より高位の低減策を検討する。
- ウ：適切。本質的対策、工学的対策、管理的対策、保護具の順で検討する。
- エ：不適切。法定事項は必ず実施する。

総合解説：可能な限り危険源そのものを除去・低減の方が確実性が高い。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0004

4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

足場上の資材落下リスクへの対策として、本質的・工学的対策に近いものはどれか。

- ア．作業者に「気を付ける」とだけ指示する。
- イ．事故後に朝礼回数を増やす。
- ウ．保護帽だけで全ての落下リスクを解消したとする。
- エ．地上で組立可能な部材は地組みし、落下防止設備も設ける。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。管理的対策だけでは弱い。
- イ：不適切。予防対策になっていない。
- ウ：不適切。落下源側の対策も必要。
- エ：適切。高所作業自体の削減と設備対策を組み合わせている。

総合解説：リスク低減は発生源側から対策し、残留リスクに管理・保護具を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0005

4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

リスクアセスメントを見直す契機として、最も適切なものはどれか。

- ア．設備・材料・作業方法を変更したときや災害・ヒヤリハットから新たな危険が判明したとき。
- イ．工事開始時の1回だけでよい。
- ウ．作業者が交代しても手順変更があっても見直さない。
- エ．危険源が増えても竣工まで据え置く。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。作業条件が変わればリスクも変化するため再評価する。
- イ：不適切。継続的な見直しが必要。
- ウ：不適切。変更内容に応じ見直す。
- エ：不適切。新たな危険へ対応する必要がある。

総合解説：リスクアセスメントは施工条件の変化に応じて更新する動的な管理である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0006

4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

KY活動（危険予知活動）の目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．法令上のリスクアセスメントを完全に代替する。
- イ．当日の作業に潜む危険と具体的な行動目標を作業者間で共有する。
- ウ．工期遅延の責任者を決める。
- エ．品質検査を省略するために行う。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。リスクアセスメントと役割は異なる。
- イ：適切。作業直前の危険感受性と行動の共有に有効である。
- ウ：不適切。責任追及が目的ではない。
- エ：不適切。品質検査とは別の活動である。

総合解説：KYは日々の具体作業に落とし込む安全活動であり、計画段階のリスクアセスメントを補完する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0007

4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

「慣れた作業なので危険はない」という判断が不適切な理由として、最も適切なものはどれか。

- ア．熟練者は法令の対象外になるため。
- イ．同じ作業では災害が二度と起こらないため。
- ウ．反復作業でも設備状態・周囲作業・人員配置など条件が変化し、リスクが生じ得るため。
- エ．経験年数が長いほど安全設備が不要になるため。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。熟練者も安全措置の対象である。
- イ：不適切。反復作業でも災害は起こる。
- ウ：適切。作業条件と人の行動の変化を含めて危険を評価する。
- エ：不適切。経験は設備対策を代替しない。

総合解説：正常性バイアスや慣れによる見落としを防ぐため、定型作業も定期的に点検する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0008

4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：応用

重大災害につながるおそれのあるリスクで恒久対策に時間を要する場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．恒久対策が完成するまで無対策で作業を続ける。
- イ．作業者の自己責任として扱う。
- ウ．災害が発生した場合だけ対策する。
- エ．恒久対策までの間も作業停止・立入禁止など必要な暫定措置を直ちに講じる。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。高リスクを放置している。
- イ：不適切。事業者による安全管理が必要。
- ウ：不適切。予防が目的である。
- エ：適切。重篤なリスクには暫定措置を含め迅速に対応する。

総合解説：リスクの大きさに応じ、恒久対策までの残留リスクも管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0009

4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

リスクアセスメントの記録として残す内容に含まれるものはどれか。

- ア．特定した危険性、有害性、見積もったリスク、優先度、実施した低減措置。
- イ．正答率だけ。
- ウ．工事写真のファイル名だけ。
- エ．作業員の出勤時刻だけ。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。評価から対策までの経緯を記録する。
- イ：不適切。安全リスクの記録ではない。
- ウ：不適切。それだけでは評価内容が分からない。
- エ：不適切。安全評価記録の中心ではない。

総合解説：記録は対策の根拠、周知、見直し時の比較資料となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0010

4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

複数の危険がある作業で対策順位を決める方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．見つけた順だけで決める。
- イ．リスク見積りを比較し、重篤性や発生可能性が高いものから優先する。
- ウ．対策費用が最も安いものだけ行う。
- エ．作業者が嫌う対策は高リスクでも除外する。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。危険度を反映しない。
- イ：適切。リスクに基づき合理的に優先順位を設定する。
- ウ：不適切。リスク低減効果を考慮する。
- エ：不適切。高リスクを放置できない。

総合解説：限られた資源を重大リスクへ優先配分するのがリスクベースの管理である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0011

4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

リスク低減後に行うべきこととして、最も適切なものはどれか。

- ア．対策した時点で危険はゼロとみなす。
- イ．作業手順書から危険情報を削除する。
- ウ．対策後の残留リスクを再評価し、必要事項を作業者へ周知する。
- エ．保護具を外してよいと一律に判断する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。残留リスクが存在することがある。
- イ：不適切。必要な注意事項は残す。
- ウ：適切。対策後にも残るリスクを把握・共有する。
- エ：不適切。必要な保護具は継続する。

総合解説：対策の有効性確認と残留リスクの管理までが一連のリスクアセスメントである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0012

4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：応用

同じ工種でも現場ごとにリスクアセスメントが必要となる理由として、最も適切なものはどれか。

- ア．法律が現場ごとに変わるため。
- イ．工事名が異なるだけで危険性は必ず同じため。
- ウ．過去の評価結果は一切参考にできないため。
- エ．地形、周辺環境、使用機械、作業配置など施工条件が異なるため。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。法令が変わることを理由とするものではない。
- イ：不適切。現場条件でリスクは変わる。
- ウ：不適切。過去資料は参考になるが現場適合確認が必要。
- エ：適切。共通ノウハウを使いつつ固有条件を評価する。

総合解説：標準リスクと現場固有リスクを組み合わせで評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0013

4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

危険作業の作業計画に含める内容として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業方法、作業区域、機械配置、労働者配置、安全措置、合図・連絡方法。
- イ．作業者の趣味だけ。
- ウ．完成後の広告だけ。
- エ．安全措置を除いた工程だけ。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。作業を安全に実施するための具体条件を定める。
- イ：不適切。作業計画の内容ではない。
- ウ：不適切。安全施工の計画ではない。
- エ：不適切。安全対策を含める必要がある。

総合解説：計画は現場で実行可能な具体性を持たせ、関係者へ周知する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0014

4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

作業指揮者を定める主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．責任を作業員へ転嫁する。
- イ．作業方法と人員配置を統一し、危険な状況での判断・指示を一本化する。
- ウ．安全装置を省略する。
- エ．各作業員が別々の合図を出す。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。安全管理の実効性向上が目的。
- イ：適切。複数人作業で指示系統を明確にする。
- ウ：不適切。設備対策は必要。
- エ：不適切。合図は統一する。

総合解説：揚重・組立解体・掘削など共同作業では明確な指揮系統が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0015

4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

作業計画を作業者へ周知する方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．事務所に保管するだけで説明しない。
- イ．計画内容を一部の管理者だけで共有する。
- ウ．作業前打合せ等で役割、手順、禁止事項、緊急時対応を具体的に確認する。
- エ．変更があっても旧計画だけを掲示する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。現場実行に結びつかない。
- イ：不適切。関係作業者への周知が必要。
- ウ：適切。実行者が理解して初めて計画が機能する。
- エ：不適切。変更内容を周知する。

総合解説：計画の作成と同じくらい、現場への伝達と理解確認が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0016

4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

複数の協力的会社が同一エリアで作業する場合の安全調整として、最も適切なものはどれか。

- ア．各社が独立して作業し情報交換しない。
- イ．工程短縮のため危険な上下同時作業を優先する。
- ウ．立入区画を会社ごとに無視する。
- エ．上下作業、火気、揚重、車両動線などの相互干渉を事前に調整する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。相互干渉事故の原因となる。
- イ：不適切。安全を損なう同時作業は避ける。
- ウ：不適切。共通ルールを守る。
- エ：適切。混在作業による新たなリスクを管理する。

総合解説：現場全体の作業間リスクを調整する統括的な安全管理が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0017 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：応用

作業中に計画と異なる地盤条件が判明した場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．一旦作業を止め、危険性を再評価して作業計画・措置を見直す。
- イ．計画どおりになるまで無理に掘削する。
- ウ．作業員だけの判断で続行する。
- エ．異常を記録せず隠す。

答え・解説 正答：ア

- ア：適切。前提条件が変化したため計画を再検討する。
- イ：不適切。崩壊等のリスクが高まる。
- ウ：不適切。必要な管理者・関係者の判断を得る。
- エ：不適切。再発防止のため記録する。

総合解説：異常時は「止める・確認する・計画を変える」が基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0018 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

重機と作業員が近接する作業の計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業員が重機直後を自由に横断する。
- イ．重機の作業半径・死角を踏まえ立入禁止区域を設定し、必要に応じ誘導者を配置する。
- ウ．運転者の目視だけに頼る。
- エ．立入範囲を日々変えて周知しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：不適切。死角で接触する危険が高い。
- イ：適切。接触災害を設備・区画・誘導で防ぐ。
- ウ：不適切。複数の対策を組み合わせる。
- エ：不適切。区画は明確に周知する。

総合解説：人と機械の動線分離を優先し、近接が避けられない場合に誘導等を追加する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0019

4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

作業計画で緊急時対応を定める理由として、最も適切なものはどれか。

- ア．事故発生時も通常作業を続けるため。
- イ．通報先を毎回その場で探すため。
- ウ．事故・火災・崩壊等の発生時に作業停止、避難、救助、通報を迅速に行うため。
- エ．避難経路を資材置場として使うため。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。二次災害を招く。
- イ：不適切。連絡先は事前に準備する。
- ウ：適切。初動の遅れを防ぐため事前に役割と連絡を定める。
- エ：不適切。避難経路を確保する。

総合解説：緊急対応は計画段階で役割・連絡系統・避難経路を決めて訓練する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0020

4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

作業主任者が選任される作業での基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．名義だけ選任し現場へ来なくてよい。
- イ．作業主任者がいれば他の安全措置は不要である。
- ウ．無資格者を便宜上作業主任者と呼ばばよい。
- エ．法令で定める資格者を選任し、その職務に応じて作業方法の決定・直接指揮等を行わせる。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。実際に職務を果たす必要がある。
- イ：不適切。設備・教育等の措置も必要。
- ウ：不適切。所定資格が必要。
- エ：適切。資格と法定職務の実行が必要である。

総合解説：作業主任者制度は専門的な危険作業を直接管理する仕組みである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0021 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

合図を必要とする共同作業での運用として、最も適切なものはどれか。

- ア．合図方法をあらかじめ定め、原則として指名された者の合図に従う。
- イ．複数人が同時に異なる合図を出す。
- ウ．運転者が見えない合図でも推測して動かす。
- エ．合図方法を作業途中で周知せず変更する。

答え・解説 正答：ア

- ア：適切。誤操作・意思疎通ミスを防ぐ。
- イ：不適切。指示が競合する。
- ウ：不適切。確認できない場合は停止する。
- エ：不適切。変更は周知が必要。

総合解説：合図の統一は揚重・車両誘導等の共同作業の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0022 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：応用

安全な作業計画の実効性を確認する方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．計画書を作成した時点で完成とし確認しない。
- イ．現場巡視・作業観察・ヒヤリハット等で実施状況を確認し、必要に応じ計画を改善する。
- ウ．計画違反を見つけても放置する。
- エ．現場からの改善提案を受け付けない。

答え・解説 正答：イ

- ア：不適切。実行されなければ意味がない。
- イ：適切。PDCA的に実施状況を確認・改善する。
- ウ：不適切。是正する必要がある。
- エ：不適切。現場情報を改善に活用する。

総合解説：計画と実作業のギャップを継続的に確認することが安全管理の実効性を高める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0023

4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

保護具の選定として、最も適切なものはどれか。

- ア．どの作業でも同じ保護具だけを使う。
- イ．外観が似ていれば規格を確認しない。
- ウ．作業の危険有害性に適合し、使用者に合う規格・性能のものを選ぶ。
- エ．破損した保護具を継続使用する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。用途により必要性能が異なる。
- イ：不適切。規格・性能を確認する。
- ウ：適切。危険源に応じて適正な保護具を選定する。
- エ：不適切。使用前点検し不良品は交換する。

総合解説：保護具は残留リスクに対する最後の防護であり、適切な選定・点検・使用が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0024

4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

保護帽のあごひもの扱いとして、最も適切なものはどれか。

- ア．頭に載せるだけでよい。
- イ．あごひもは常に切って使用する。
- ウ．サイズが合わなくても調整しない。
- エ．脱落しないよう適切に締めて着用する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。十分な保護性能を発揮できない。
- イ：不適切。固定機能を失う。
- ウ：不適切。適切に調整する。
- エ：適切。墜落・飛来落下時に保護帽が脱落しないよう着用する。

総合解説：保護具は「持っている」だけでなく、正しく装着して初めて機能する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0025

4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

墜落制止用器具を使用する場合の取付設備について、最も適切なものはどれか。

- ア．安全に取り付けられる設備を設け、器具と取付設備を随時点検する。
- イ．強度不明の仮設配管へ任意に掛ける。
- ウ．フックを掛けず着用だけする。
- エ．取付設備は一度設置すれば点検不要。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。安衛則521条の基本である。
- イ：不適切。支持強度を確保する必要がある。
- ウ：不適切。墜落制止機能を発揮しない。
- エ：不適切。異常の有無を点検する。

総合解説：器具本体とアンカー側の両方が機能して初めて墜落を制止できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0026

4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

立入禁止区域の設定方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．口頭で一人に伝えるだけとする。
- イ．危険範囲を明確に区画・表示し、必要に応じ監視員等で侵入を防ぐ。
- ウ．危険区域との境界を表示しない。
- エ．資材置場と混同する表示にする。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。全関係者へ明確に伝える。
- イ：適切。関係者が一目で認識できる管理が必要。
- ウ：不適切。誤侵入につながる。
- エ：不適切。表示を明確にする。

総合解説：立入禁止は管理的対策であり、範囲・理由・期間を分かりやすく管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0027

4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

有機溶剤等を扱う作業で呼吸用保護具を使用する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．粉じん用マスクなら全てのガスに有効とみなす。
- イ．吸収缶は使用期間に関係なく永久使用する。
- ウ．物質・濃度・作業条件に適合する保護具を選び、密着性や吸収缶の管理を行う。
- エ．保護具を使えば換気等の対策は不要とする。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。保護対象が異なる。
- イ：不適切。交換時期を管理する。
- ウ：適切。対象有害物に適合した性能と適切な管理が必要。
- エ：不適切。高位の工学的対策等も検討する。

総合解説：化学物質対策でも保護具は他のリスク低減措置と組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0028

4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

保護具の使用前点検で異常を発見した場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．そのまま使用して作業後に報告する。
- イ．テープで応急補修すれば性能確認不要。
- ウ．他人へ回して使用させる。
- エ．使用を中止し、良品へ交換又は適切に整備する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。事故防止のため使用前に対処する。
- イ：不適切。規定に沿った整備・交換が必要。
- ウ：不適切。危険を移転しているだけ。
- エ：適切。不良保護具は所要性能を保証できない。

総合解説：保護具は点検・保守・交換まで含めて管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0029

4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

クレーン旋回範囲や重機接触範囲の立入管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．物理的区画や表示で立入を制限し、必要時は誘導者との合図で入場させる。
- イ．作業員なら自由に横断させる。
- ウ．運転者から見えていると推定して区画しない。
- エ．死角内に休憩場所を設ける。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。機械との接触リスクを区域管理で低減する。
- イ：不適切。接触・挟まれの危険がある。
- ウ：不適切。死角を前提に対策する。
- エ：不適切。危険区域に滞在場所を設けない。

総合解説：機械作業では人と機械の空間分離を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0030

4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：応用

一時的に安全柵を外して搬入を行う必要がある場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．外したまま翌日まで放置する。
- イ．代替の墜落・立入防止措置を講じ、作業終了後直ちに柵を復旧する。
- ウ．作業員へ口頭注意だけで代替措置を取らない。
- エ．復旧確認者を定めない。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。継続的な危険を残す。
- イ：適切。臨時撤去中も同等の安全を確保し、終了後復旧する。
- ウ：不適切。設備等による対策が必要。
- エ：不適切。復旧確認を管理する。

総合解説：安全設備の一時撤去は高リスクな変更として管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0031 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

高さが2m以上の箇所、墜落により危険を及ぼすおそれがある作業を行う場合の原則として、最も適切なものはどれか。

- ア．保護帽だけで作業床を省略する。
- イ．高さに関係なく必ず脚立だけを使う。
- ウ．足場を組み立てる等により作業床を設ける。
- エ．注意喚起だけで作業する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：不適切。作業床を設けられる場合は設備対策を優先する。
- イ：不適切。作業条件に適した安全設備を用いる。
- ウ：適切。安衛則518条は作業床の設置を原則としている。
- エ：不適切。墜落防止措置が必要。

総合解説：高所作業ではまず墜落そのものを防ぐ作業床・囲い等を設ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0032 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

高さ2m以上の作業床の端や開口部で墜落のおそれがある場合の原則的措置はどれか。

- ア．開口部を見えにくくする。
- イ．資材を仮置きして境界とする。
- ウ．作業員の経験だけに任せる。
- エ．囲い、手すり、覆い等を設ける。

答え・解説 正答：エ

- ア：不適切。危険認識を妨げる。
- イ：不適切。安定した墜落防止設備ではない。
- ウ：不適切。設備的な措置が必要。
- エ：適切。安衛則519条の原則である。

総合解説：開口部は物理的に墜落を防止し、臨時撤去時には代替措置を講じる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0033 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

足場の高さ2m以上の作業場所に設ける作業床の幅として、安衛則上の基準はどれか。

- ア．40 cm以上（安衛則の作業床最低幅を採る）
- イ．20 cm以上（単独足場板程度の狭い幅を基準とみなす）
- ウ．30 cm以上（中間的な幅を最低基準とみなす）
- エ．60 cm以上（最低基準ではなく広めの値だけを許容する）

答え・解説 正答：ア

- ア：適切。作業床幅は40cm以上とする。
- イ：不適切。基準を満たさない。
- ウ：不適切。基準を満たさない。
- エ：不適切。最低基準は40cm以上である。

総合解説：足場作業床では幅、床材間隙間、建地との隙間を併せて管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0034 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

足場作業床の床材間の隙間として、安衛則上の基準はどれか。

- ア．10cm以下（考え方：基準を超える）
- イ．3cm以下（考え方：床材間の隙間は3cm以下）
- ウ．20cm以下（考え方：墜落・物体落下リスクが高い）
- エ．隙間に制限はない（考え方：数値基準がある）

答え・解説 正答：イ

- ア：不適切。基準を超える。
- イ：適切。床材間の隙間は3cm以下。
- ウ：不適切。墜落・物体落下リスクが高い。
- エ：不適切。数値基準がある。

総合解説：小さな隙間でも足先の踏み外しや物体落下の原因となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0035

4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場の床材と建地との隙間として、安衛則上の基準はどれか。

- ア．12cm以上（考え方：基準と逆である）
- イ．20cm以上（考え方：大きな隙間は墜落等の危険がある）
- ウ．12cm未満（考え方：床材と建地との隙間は12cm未満）
- エ．隙間は任意（考え方：数値基準がある）

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。基準と逆である。
- イ：不適切。大きな隙間は墜落等の危険がある。
- ウ：適切。床材と建地との隙間は12cm未満。
- エ：不適切。数値基準がある。

総合解説：作業床を片寄せして建地側に大きな隙間を生じさせないように施工する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0036

4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

わく組足場以外の足場に設ける手すり等の高さとして、基準に適合するものはどれか。

- ア．50 cm以上（腰部より低い高さを基準とみなす）
- イ．60 cm以上（中間高さを基準とみなす）
- ウ．75 cm以上（85 cm基準より低い高さを許容する）
- エ．85 cm以上（安衛則の手すり等最低高さを採る）

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。基準を満たさない。
- イ：不適切。基準を満たさない。
- ウ：不適切。85cm以上が必要。
- エ：適切。手すり等は高さ85cm以上。

総合解説：中さん等と組み合わせ、墜落防止設備を構成する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0037 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

わく組足場以外の足場で、手すりと併せて設ける中さんの高さとして適切な範囲はどれか。

- ア．35cm以上50cm以下（考え方：中さんは35～50cmの位置）
- イ．5cm以上10cm以下（考え方：低すぎる）
- ウ．60cm以上80cm以下（考え方：標準の範囲と異なる）
- エ．100cm以上120cm以下（考え方：手すりと機能が重なる高さである）

答え・解説 正答：ア

- ア：適切。中さんは35～50cmの位置。
- イ：不適切。低すぎる。
- ウ：不適切。標準の範囲と異なる。
- エ：不適切。手すりと機能が重なる高さである。

総合解説：手すりの中さんで人体が作業床外へ抜けることを防止する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0038 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

わく組足場の墜落防止設備として、適切な組合せはどれか。

- ア．交さ筋かいを全て外した状態。
- イ．交さ筋かいと所定の下さん又は幅木等、または手すりわく。
- ウ．ロープ1本だけ。
- エ．養生テープだけ。

答え・解説 正答：イ

- ア：不適切。構造・墜落防止機能を損なう。
- イ：適切。安衛則に定めるわく組足場の設備例である。
- ウ：不適切。所定の丈夫な設備ではない。
- エ：不適切。墜落防止設備にならない。

総合解説：足場種類に応じた法定の墜落防止設備を確実に設置する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0039

4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場を設ける箇所の幅が1m以上ある場合の一側足場の使用について、現行の考え方として最も適切なものはどれか。

- ア．幅に関係なく一側足場を優先する。
- イ．本足場は禁止されている。
- ウ．原則として一側足場ではなく本足場を使用する。
- エ．墜落防止設備があれば必ず一側足場にする。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。使用範囲が制限されている。
イ：不適切。本足場の使用を徹底する趣旨である。
ウ：適切。令和6年4月以降、幅1m以上では原則本足場を使用する。
エ：不適切。例外条件を除き本足場を使用する。

総合解説：十分な設置幅がある場所では、より安定した本足場を使用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0040

4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場の組立て、一部解体又は変更後の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．変更後は点検を省略する。
- イ．作業員が気付いた場合だけ点検する。
- ウ．不良箇所を表示せず使用する。
- エ．使用前に所定事項を点検し、異常があれば直ちに補修する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。変更は点検契機となる。
イ：不適切。計画的に点検する。
ウ：不適切。異常は是正してから使用する。
エ：適切。足場状態が変化した後は点検・是正が重要。

総合解説：足場は組立時だけでなく、変更・悪天候等の後も状態確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0041 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：応用

足場用墜落防止設備を作業上やむを得ず一時的に取り外す場合の措置として、最も適切なものはどれか。

- ア．関係者以外の立入を禁止し、墜落制止用器具等の代替措置を講じ、作業終了後直ちに復旧する。
- イ．取り外したまま通常作業を続ける。
- ウ．注意表示だけで代替措置をしない。
- エ．復旧は竣工時まで行わない。

答え・解説 正答：ア

- ア：適切。一時撤去中も墜落リスクを管理し、終了後復旧する。
- イ：不適切。重大な墜落リスクとなる。
- ウ：不適切。代替の墜落防止措置が必要。
- エ：不適切。直ちに復旧する。

総合解説：安全設備の一時撤去は立入・墜落防止と復旧確認をセットで管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0042 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

高さ2m以上の高所作業で強風・大雨・大雪等により危険が予想される場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．経験者だけで続行する。
- イ．作業を行わせない。
- ウ．保護帽を着ければ続行する。
- エ．工程遅延があれば必ず作業する。

答え・解説 正答：イ

- ア：不適切。経験で悪天候リスクは消えない。
- イ：適切。安衛則522条に基づき危険が予想される悪天候時は作業を行わせない。
- ウ：不適切。墜落等を防止できない。
- エ：不適切。安全を優先する。

総合解説：悪天候時は作業中止基準を事前に定め、再開前に設備状態を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0043

4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場上に資材を仮置きする場合の管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．積載荷重を表示せず無制限に置く。
- イ．一箇所に集中して積む。
- ウ．足場の最大積載荷重を守り、偏荷重や落下のおそれがないよう配置する。
- エ．通路を全て資材で塞ぐ。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。荷重管理が必要。
- イ：不適切。局部的に過大荷重が生じる。
- ウ：適切。過積載・偏荷重による倒壊と物体落下を防ぐ。
- エ：不適切。安全な通行幅を確保する。

総合解説：足場は作業床であると同時に仮設構造物であり、荷重管理が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0044

4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

足場の昇降方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．交さ筋かいを梯子として常用する。
- イ．資材を持ったまま外側を登る。
- ウ．昇降設備の開口部を無防護にする。
- エ．所定の階段・昇降設備を使用し、足場外面をよじ登らない。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。墜落の危険が高い。
- イ：不適切。両手確保も困難で危険。
- ウ：不適切。開口部の墜落防止が必要。
- エ：適切。安全な昇降設備を用いる。

総合解説：高所災害は作業中だけでなく昇降時にも発生するため、専用設備を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0045

4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

明り掘削の作業開始前に地山について行う点検として、最も適切なものはどれか。

- ア．浮石・き裂、含水、湧水、凍結状態の変化等を確認する。
- イ．地表色だけを見る。
- ウ．重機の燃料だけを確認する。
- エ．地山は一度調査すれば毎日の確認は不要。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。地山崩壊の兆候を点検する。
- イ：不適切。崩壊リスクを十分評価できない。
- ウ：不適切。機械点検とは別である。
- エ：不適切。作業開始前等に点検する。

総合解説：地山状態は降雨・振動等で変化するため継続的に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0046

4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

明り掘削の地山点検を追加で行うべき時期として、最も適切なものはどれか。

- ア．晴天が続いた月末だけ。
- イ．大雨の後や中震以上の地震の後。
- ウ．竣工後だけ。
- エ．作業員が交代したときだけ。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。必要時期を満たさない。
- イ：適切。地山状態が急変する可能性があるため点検する。
- ウ：不適切。作業中の安全確保に間に合わない。
- エ：不適切。地山変化とは直接関係しない。

総合解説：地震や大雨後は掘削面のき裂・湧水・緩み等を再確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0047 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

土止め支保工を組み立てる場合の準備として、最も適切なものはどれか。

- ア．現場の感覚だけで部材を配置する。
- イ．切りばり位置を作業途中で無記録に変更する。
- ウ．部材の配置、寸法、材質、取付時期・順序を示す組立図を作成し、それにより組み立てる。
- エ．材料強度を確認しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：不適切。構造安定を保証できない。
- イ：不適切。計画・確認が必要。
- ウ：適切。安衛則370条は組立図の作成を求める。
- エ：不適切。部材品質の確認が必要。

総合解説：土止め支保工は施工中の地山を支える構造物として計画・組立管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0048 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

土止め支保工の切りばり・腹おこしの取付けとして、最も適切なものはどれか。

- ア．摩擦だけに期待して無固定とする。
- イ．切りばりを外した状態で掘削を深く進める。
- ウ．変形している部材をそのまま用いる。
- エ．脱落しないよう矢板・くい等へ確実に取り付ける。

答え・解説 正答：エ

- ア：不適切。脱落・崩壊の危険がある。
- イ：不適切。計画された支保工を維持する。
- ウ：不適切。不良部材を使用しない。
- エ：適切。支保工の荷重伝達を確実にする。

総合解説：支保工部材は所定の順序と接合で一体として機能させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0049

4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

土止め支保工を設けた後の定期点検間隔として、安衛則上適切なものはどれか。

- ア．7日を超えない期間ごと（考え方：7日を超えない期間ごとに点検する）
- イ．30日を超えない期間ごとだけ（考え方：間隔が長い期間を採る）
- ウ．半年ごと（考え方：施工中の変化を捉えられない）
- エ．竣工時だけ（考え方：継続点検が必要）

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。7日を超えない期間ごとに点検する。
- イ：不適切。間隔が長すぎる。
- ウ：不適切。施工中の変化を捉えられない。
- エ：不適切。継続点検が必要。

総合解説：さらに中震以上の地震後、大雨等で地山が急に軟弱化するおそれがある後にも点検する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0050

4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

土止め支保工の点検で異常を認めた場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．次回定期点検まで放置する。
- イ．直ちに補強又は補修する。
- ウ．写真だけ撮って使用を続ける。
- エ．切りばりをさらに外して様子を見る。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。重大災害につながる。
- イ：適切。崩壊防止のため即時是正する。
- ウ：不適切。記録だけでなく是正が必要。
- エ：不適切。安定性をさらに損なう。

総合解説：支保工の変形・緩み等は崩壊の前兆として扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0051 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

地山の掘削作業主任者の職務として、最も適切なものはどれか。

- ア．工事代金だけを管理する。
- イ．作業方法を作業員任せにする。
- ウ．作業方法を決定して直接指揮し、器具等を点検し、墜落制止用器具・保護帽の使用状況を監視する。
- エ．保護具の使用状況は確認しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：不適切。法定職務ではない。
- イ：不適切。直接指揮が職務。
- ウ：適切。安衛則360条に定める主要職務である。
- エ：不適切。使用状況を監視する。

総合解説：危険な掘削作業では資格者が作業方法と安全措置を直接管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0052 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：応用

掘削底付近で湧水が急増し、土砂流出の兆候が見られた場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．工程優先で掘削を継続する。
- イ．土砂流出箇所へ作業員を近づけて手で確認する。
- ウ．異常を記録せず埋め戻す。
- エ．作業員を退避させ、排水・土止め・地盤条件を再確認して安全を確保してから再開する。

答え・解説 正答：エ

- ア：不適切。重大災害のリスクが高い。
- イ：不適切。二次災害の危険がある。
- ウ：不適切。原因確認と記録が必要。
- エ：適切。崩壊・ボイリング等の危険を考え作業を止める。

総合解説：地盤・地下水の急変は即時退避・再評価の対象とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0053

4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：応用

掘削部の周辺に重機や掘削土を配置する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．地山や土止めへの上載荷重を考慮し、崩壊を誘発しない離隔・配置とする。
- イ．掘削端ぎりぎりへ最大荷重を集中する。
- ウ．土止め計画と無関係に大型重機を配置する。
- エ．雨水が掘削部へ流入するよう土砂を積む。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。掘削周辺荷重は地山安定に影響する。
- イ：不適切。崩壊リスクを高める。
- ウ：不適切。荷重条件を計画へ反映する。
- エ：不適切。排水も考慮する。

総合解説：掘削安全は斜面形状だけでなく周辺荷重・地下水・振動を総合評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0054

4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

土止め支保工の切りばり取付け・取外し作業時の立入管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．他職種の通路として同時利用する。
- イ．関係作業従事者以外の立入りを禁止し、その旨を表示する。
- ウ．吊下げ中の部材の直下へ待機させる。
- エ．立入禁止表示を不要とする。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。挟まれ・落下等の危険がある。
- イ：適切。安衛則372条の基本である。
- ウ：不適切。つり荷下へ立ち入らせない。
- エ：不適切。明確な立入禁止が必要。

総合解説：土止め部材の組立解体時は作業区域を限定して指揮下で実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0055

4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

移動式クレーンを軟弱地盤で使用する場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．アウトリガーを軟弱土へ直接載せる。
- イ．地盤確認をせず定格荷重いっぱいを吊る。
- ウ．転倒のおそれがないよう必要な広さ・強度の敷鉄板等で地盤を補強して設置する。
- エ．沈下しても作業を継続する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。局部沈下の危険がある。
- イ：不適切。地盤条件を事前確認する。
- ウ：適切。地盤支持力を確保して転倒を防止する。
- エ：不適切。直ちに作業を停止して是正する。

総合解説：移動式クレーンの安定は機械性能だけでなく設置地盤に支配される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0056

4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

アウトリガーを有する移動式クレーンの使用方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．片側だけ収納したまま定格荷重表を無視する。
- イ．張出し幅と定格荷重は無関係とする。
- ウ．敷板から外れた状態で使用する。
- エ．原則としてアウトリガーを最大限に張り出す。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。転倒危険が高い。
- イ：不適切。張出し幅で定格荷重が変わる。
- ウ：不適切。確実に支持面へ設置する。
- エ：適切。原則最大張出しとし、例外時は張出し幅に応じた定格荷重を守る。

総合解説：アウトリガー条件と作業半径を定格荷重表に照合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0057 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：基礎

クレーンで荷を吊り上げる前の「地切り」の目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．荷をわずかに浮かせて玉掛け状態や機体の安定を確認する。
- イ．荷を一気に最高位置まで巻き上げる。
- ウ．荷振れを大きくする。
- エ．ワイヤロープを緩めたまま旋回する。

答え・解説 正答：ア

- ア：適切。吊荷と機体の異常を本格移動前に確認する。
- イ：不適切。異常時の影響が大きい。
- ウ：不適切。荷振れを抑える。
- エ：不適切。安定してから操作する。

総合解説：地切りは玉掛け・重心・クレーン安定の最終確認として重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0058 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：基礎

クレーン運転の合図として、最も適切なものはどれか。

- ア．複数人が同時に異なる合図を行う。
- イ．一定の合図を定め、指名された合図者が明確に行う。
- ウ．合図が見えなくても推測して運転する。
- エ．合図方法を作業者へ知らせない。

答え・解説 正答：イ

- ア：不適切。指示が競合する。
- イ：適切。誤操作を防ぐ基本である。
- ウ：不適切。不明時は停止・確認する。
- エ：不適切。事前周知が必要。

総合解説：運転者と玉掛け者の意思疎通を単一化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0059 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：基礎

移動式クレーンの運転者が荷を吊った状態で行ってはならないことはどれか。

- ア．荷重計等を確認すること。
- イ．合図者を確認すること。
- ウ．運転位置から離れること。
- エ．周囲の安全を確認すること。

答え・解説 正答：ウ

ア：不適切ではない。安全確認として必要。
イ：不適切ではない。合図系統確認は重要。
ウ：適切。クレーン等安全規則は吊荷を残して運転位置を離れることを禁止する。
エ：不適切ではない。周囲確認が必要。

総合解説：吊荷を無監視状態にせず、作業中は運転者が操作管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0060 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

強風のため移動式クレーン作業に危険が予想される場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．定格荷重を超えて短時間で終わらせる。
- イ．吊荷を高く吊ったまま待機する。
- ウ．運転者の経験だけで続行する。
- エ．作業を中止し、必要に応じジブ固定等の転倒防止措置を講じる。

答え・解説 正答：エ

ア：不適切。過負荷は禁止。
イ：不適切。風の影響を受け危険。
ウ：不適切。風荷重リスクを無視できない。
エ：適切。強風時は作業中止し機械の安定を確保する。

総合解説：大面積・長尺物は特に風の影響を受けるため、作業中止基準を守る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0061 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：応用

吊荷の下や落下危険区域の管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．立入禁止措置を講じ、吊荷を人の頭上を通過させないよう作業経路を計画する。
- イ．作業員を吊荷直下に待機させる。
- ウ．吊荷が軽ければ直下通行を常時認める。
- エ．立入禁止範囲を周知しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：適切。落下・玉掛け外れによる災害を防ぐ。
- イ：不適切。重大災害の危険がある。
- ウ：不適切。重量だけで安全とはならない。
- エ：不適切。明確に区画・周知する。

総合解説：揚重計画では吊荷の経路と人の動線を分離する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0062 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：応用

つり上げ荷重1t未満のクレーン等の玉掛け業務に労働者を就かせる場合に必要な教育として、最も適切なものはどれか。

- ア．教育は一切不要。
- イ．玉掛け業務に関する特別教育。
- ウ．大型特殊自動車免許だけ。
- エ．足場作業主任者技能講習だけ。

答え・解説 正答：イ

- ア：不適切。安全教育が必要。
- イ：適切。クレーン等安全規則222条は1t未満の玉掛けに特別教育を求める。
- ウ：不適切。玉掛け資格とは別。
- エ：不適切。別作業の資格である。

総合解説：吊上げ荷重に応じて玉掛けに必要な資格・教育区分を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0063

4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

建設工事公衆災害防止対策要綱における「公衆」の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．元請会社の社員だけをいう。
- イ．現場作業員だけをいう。
- ウ．工事関係者以外の第三者をいう。
- エ．有資格者だけをいう。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。工事関係者である。
イ：不適切。労働災害の対象側である。
ウ：適切。公衆災害は工事関係者以外の第三者への危害・迷惑を対象とする。
エ：不適切。資格の有無で定義しない。

総合解説：建設工事では労働者安全だけでなく、通行人・近隣住民・財産への危害を防ぐ必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0064

4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

公衆災害防止の基本方針として、最も適切なものはどれか。

- ア．現場外の事故は施工者と無関係とする。
- イ．工程短縮のため第三者動線を作業場内へ通す。
- ウ．近隣への迷惑は財産損害がなければ考慮しない。
- エ．工事に伴う事故リスクや社会活動への影響を可能な限り小さくする。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。現場外への影響も管理対象。
イ：不適切。公衆と作業場を分離する。
ウ：不適切。迷惑も公衆災害の範囲に含む。
エ：適切。要綱は生命・身体・財産への危害や迷惑の防止を目的とする。

総合解説：公衆災害防止は計画・設計・施工の各段階で実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0065

4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

工事現場の仮囲いを設ける目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．公衆の無断立入りを防ぎ、作業場との境界を明確にする。
- イ．車両の視界を悪くする。
- ウ．落下物を道路へ誘導する。
- エ．現場出入口を常時無人開放する。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。工事区域と公衆利用区域を分離する。
- イ：不適切。出入口の視認性も確保する。
- ウ：不適切。飛来落下を防止する。
- エ：不適切。必要な管理を行う。

総合解説：仮囲いは第三者立入防止の基本設備であり、強風等に耐える安全な構造とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0066

4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

工事車両出入口の第三者災害防止として、最も適切なものはどれか。

- ア．大型車を歩道へ無確認で進入させる。
- イ．歩行者・自転車・一般車両を確認し、必要に応じ交通誘導警備員を配置する。
- ウ．出入口前に視界を遮る資材を積む。
- エ．車両優先として歩行者を止め続ける。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。接触事故の危険が高い。
- イ：適切。出入口は公衆と工事車両が交差する高リスク箇所である。
- ウ：不適切。見通しを確保する。
- エ：不適切。交通への影響を最小化する。

総合解説：車両入退場は誘導・見通し・待機位置・時間帯まで含めて計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0067

4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

外部足場から工具・材料が落下する危険への対策として、最も適切なものはどれか。

- ア．歩行者に上を見て歩くよう頼むだけとする。
- イ．工具を足場端に並べる。
- ウ．幅木・メッシュシート・防護棚等を作業条件に応じて設け、落下源も整理する。
- エ．落下物が軽ければ対策不要とする。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。第三者側の注意だけに依存しない。
- イ：不適切。落下リスクを高める。
- ウ：適切。発生源対策と防護設備を組み合わせる。
- エ：不適切。軽量物でも危険。

総合解説：飛来落下防止は物を落とさない管理と、万一の落下を止める設備を重ねる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0068

4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：応用

解体工事で公衆災害を防止するための計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．壁を外側へ自由落下させる。
- イ．第三者通路の直上で無防護に解体する。
- ウ．解体材の投下範囲を区画しない。
- エ．解体順序、飛散・落下防止、重機作業範囲、周辺建物・道路への影響を事前に検討する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。公衆へ危害を与える。
- イ：不適切。防護・通行規制等が必要。
- ウ：不適切。立入禁止管理が必要。
- エ：適切。解体は落下・倒壊・粉じん等の公衆リスクが高い。

総合解説：解体は構造安定を段階的に維持しながら周辺への飛散・落下を抑える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0069

4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

強風が予想される前の現場外周部の管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．仮囲い、シート、看板、資材等の固定状態を確認し、飛散・倒壊防止措置を行う。
- イ．軽い資材を屋上に無固定で置く。
- ウ．メッシュシートを状態確認せず放置する。
- エ．仮囲いの傾きを確認しない。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。荒天前に飛散・倒壊源を除去・固定する。
- イ：不適切。飛来物となる。
- ウ：不適切。風荷重への対策が必要。
- エ：不適切。倒壊予防点検が必要。

総合解説：荒天対策は予報段階で準備し、公衆側へ被害が及ばない状態にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0070

4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

工事現場周辺の歩行者通路を確保する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．資材を通路へ常時突出させる。
- イ．作業場と区画し、つまずき・すべり・落下物・照明等に配慮して安全な通路を確保する。
- ウ．段差を表示せず残す。
- エ．夜間照明を設けず通行させる。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。接触・転倒の危険がある。
- イ：適切。公衆が安全に通行できる状態を維持する。
- ウ：不適切。段差解消・表示等が必要。
- エ：不適切。視認性を確保する。

総合解説：歩行者通路は高齢者・車椅子使用者等も含む多様な利用者を想定して計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0071 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

現場から道路へ泥土を持ち出すおそれがある場合の対策として、最も適切なものはどれか。

- ア．泥が乾くまで放置する。
- イ．一般車両が滑っても工事と無関係とする。
- ウ．車輪洗浄や路面清掃を行い、道路を安全で清潔な状態に保つ。
- エ．側溝へ泥土を流し込む。

答え・解説 正答：ウ

- ア：不適切。交通事故等の原因となる。
- イ：不適切。工事起因の公衆リスクである。
- ウ：適切。道路汚損による滑り・粉じん等を防止する。
- エ：不適切。排水機能を阻害する。

総合解説：現場外へ持ち出す泥・砂・資材も第三者災害の原因として管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0072 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

騒音・振動を伴う工事の近隣対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．苦情が出るまで最大出力で夜間作業する。
- イ．近隣用途を確認しない。
- ウ．法令値だけ守れば作業時間の配慮は不要とする。
- エ．施工時間・工法を調整し、必要な防音・低振動対策と事前周知を行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：不適切。公衆への迷惑を増大させる。
- イ：不適切。学校・病院等への配慮に必要。
- ウ：不適切。契約・地域条件等も考慮する。
- エ：適切。法令遵守に加えて周辺影響の最小化を図る。

総合解説：環境面の公衆災害は発生源対策・時間調整・情報提供を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0073

4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：応用

公衆が立ち入る可能性のある区域で一時的に開口部を設ける場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．堅固な覆い・柵等を設け、ずれや無断撤去を防ぎ、必要な表示・照明を行う。
- イ．カラーコーン1個だけを遠くに置く。
- ウ．夜間は見えないため無対策とする。
- エ．覆いを固定せず置くだけとする。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。第三者が危険を認識できないことを前提に物理的に防護する。
イ：不適切。侵入・転落を十分防げない。
ウ：不適切。夜間こそ視認対策が必要。
エ：不適切。ずれ・転倒を防止する。

総合解説：公衆区域の危険箇所は設備で確実に隔離し、視認性も確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0074

4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：応用

公衆災害につながる事故・異常が発生した場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．原因確認前に通常作業を再開する。
- イ．人命安全を最優先に作業を停止し、危険区域を隔離して関係機関へ連絡し、二次災害防止を行う。
- ウ．第三者被害を記録しない。
- エ．破損した防護設備を放置する。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。二次災害の危険がある。
イ：適切。初動で被害拡大を防ぎ、必要な連絡・復旧を行う。
ウ：不適切。記録・報告が必要。
エ：不適切。安全状態を回復する。

総合解説：緊急時は救護・隔離・通報・復旧の優先順位を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0075

4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

道路において工事又は作業を行う場合の道路使用許可について、最も適切なものはどれか。

- ア．施工者が安全と思えば許可不要である。
- イ．道路管理者への連絡だけで道路交通法上の手続は全て不要になる。
- ウ．道路交通法に基づき、必要な場合は管轄警察署長の道路使用許可を受ける。
- エ．工事終了後に事後申請すればよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。法令上の手続を確認する。
イ：不適切。道路占用等とは制度が異なる。
ウ：適切。道路で工事・作業をする行為は道路使用許可の対象となる。
エ：不適切。事前に許可を受ける。

総合解説：道路を特別に使用する工事では交通管理上の許可条件を守る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0076

4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

道路使用許可の申請先として、原則適切なものはどれか。

- ア．税務署長。
- イ．消防署長だけ。
- ウ．法務局長。
- エ．道路使用場所を管轄する警察署長。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。所管が異なる。
イ：不適切。道路使用許可の申請先ではない。
ウ：不適切。所管が異なる。
エ：適切。道路交通法77条に基づく道路使用許可は管轄警察署長へ申請する。

総合解説：道路占用許可等の別手続が必要な場合もあるため、工事条件ごとに確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0077

4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

道路使用許可を受けた工事での施工として、最も適切なものはどれか。

- ア．許可された場所・時間・方法や付された条件を守って施工する。
- イ．許可時間外も自由に施工する。
- ウ．許可範囲を無断で広げる。
- エ．誘導員配置条件を無視する。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。許可条件に従うことで交通危険・妨害を抑える。
- イ：不適切。条件違反となる。
- ウ：不適切。必要な変更手続等を確認する。
- エ：不適切。安全条件を遵守する。

総合解説：道路工事の安全管理は許可取得で終わらず、現場で条件を確実に実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0078

4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

道路上の工事区間の交通誘導として、最も適切なものはどれか。

- ア．工事箇所直前まで何も表示しない。
- イ．一般車両・歩行者が早めに工事区間を認識できる標識・保安設備を配置し、必要に応じ誘導員を置く。
- ウ．夜間に保安設備を見えなくする。
- エ．誘導員同士の合図を決めない。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。急操作・事故の原因となる。
- イ：適切。道路利用者へ十分な予告と安全な誘導を行う。
- ウ：不適切。夜間視認性が必要。
- エ：不適切。片側交互通行等では連携が重要。

総合解説：交通対策は道路利用者が無理な回避行動をしなくて済むよう早期に情報を与える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0079

4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

歩道の一部を工事で使用するため歩行者を迂回させる場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．歩行者を突然車道へ出す。
- イ．迂回経路に段差や障害物を残す。
- ウ．連続した安全な代替通路を確保し、分かりやすい案内と車道側防護を行う。
- エ．車椅子利用者等の通行を考慮しない。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。車両との接触リスクが高い。
- イ：不適切。転倒の原因となる。
- ウ：適切。公衆の通行安全・分かりやすさ・バリアを考慮する。
- エ：不適切。多様な利用者に配慮する。

総合解説：歩行者動線の変更は連続性と安全性を確保して初めて成立する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0080

4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

工事車両を道路上で待機させる計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．現場前に長時間二重駐車させる。
- イ．交差点付近に集中待機させる。
- ウ．搬入時刻を各運転者の判断だけに任せる。
- エ．交通への支障を避ける待機場所・時間を計画し、路上での無秩序な待機を防ぐ。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。交通障害・事故原因となる。
- イ：不適切。見通し・通行を妨げる。
- ウ：不適切。時間調整が必要。
- エ：適切。搬入予約等で周辺交通への影響を抑える。

総合解説：ロジスティクス計画は現場内だけでなく周辺道路の交通容量も考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0081 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

大型工事車両が現場から公道へ出る際の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．歩行者・自転車・一般車両の安全を確認し、必要な誘導を受けて徐行して出場する。
- イ．歩道上で急加速する。
- ウ．誘導員の停止合図を無視する。
- エ．車輪に付着した泥を道路へ落としたまま走行する。

答え・解説 正答：ア

- ア：適切。出入口での接触事故と道路汚損を防ぐ。
- イ：不適切。第三者へ危険。
- ウ：不適切。統一された誘導に従う。
- エ：不適切。洗浄・清掃が必要。

総合解説：現場出入口は工事車両と公衆動線の交錯点として重点管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0082 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

夜間に道路に近接して工事を行う場合の保安設備として、最も適切なものはどれか。

- ア．保安設備を黒色シートで隠す。
- イ．標識・バリケード等を照明や反射材等で認識しやすくし、必要な視距を確保する。
- ウ．作業灯を対向車運転者へ直接向け眩惑させる。
- エ．昼間用表示だけで十分とする。

答え・解説 正答：イ

- ア：不適切。衝突リスクを高める。
- イ：適切。夜間は視認性と眩惑防止の両方を考慮する。
- ウ：不適切。視認性をかえて損なう。
- エ：不適切。夜間条件へ対応する。

総合解説：保安設備は道路利用者が十分手前から認識できるよう配置・維持する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0083

4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：応用

道路工事の保安設備が強風等で転倒・移動した場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．次の巡回まで放置する。
- イ．倒れた看板を車道中央へ移す。
- ウ．交通に危険が及ばないよう直ちに作業区域を安全化し、設備を復旧・補強する。
- エ．許可条件の設備がなくても通常作業を続ける。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。第三者事故につながる。
- イ：不適切。交通障害を増す。
- ウ：適切。保安設備の機能喪失は即時是正する。
- エ：不適切。安全条件を回復してから作業する。

総合解説：道路上の安全施設は常時機能するよう巡回・点検・復旧する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0084

4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：応用

道路使用を伴う工程変更で作業場所・時間帯を変更する必要がある場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．現場判断で許可範囲外へ移動する。
- イ．警察等への連絡を一切行わない。
- ウ．交通規制設備だけ移動し書類条件を確認しない。
- エ．既存許可の範囲・条件を確認し、必要な変更手続や関係機関との調整を行ってから施工する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。無許可状態となるおそれがある。
- イ：不適切。必要な協議・手続を行う。
- ウ：不適切。工程変更時は手続への影響も確認する。
- エ：適切。許可条件と実施工を一致させる。

総合解説：工程変更には施工だけでなく行政手続・交通計画の再確認も含まれる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0085

4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

掘削予定範囲に地下埋設物が予想される場合の事前対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．既存資料や管理者情報を確認し、必要に応じ探査・試掘等で位置を確認する。
- イ．図面を確認せず重機掘削を始める。
- ウ．埋設物に当たるまで掘る。
- エ．古い図面の位置を無条件に信用する。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。資料と現地確認を組み合わせる。
- イ：不適切。損傷事故につながる。
- ウ：不適切。危険な確認方法である。
- エ：不適切。現況とのずれを考慮する。

総合解説：埋設物事故は停電・ガス漏れ・断水等の重大な公衆災害につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0086

4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

重要な地下埋設物に近接して掘削する場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．施工者だけで保護方法を決める。
- イ．管理者と協議し、防護方法、立会いの要否、緊急連絡先等を決める。
- ウ．管理者の指示を無視する。
- エ．緊急連絡先を工事後に確認する。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。管理条件を確認する必要がある。
- イ：適切。要綱は管理者・関係機関との事前協議を求める。
- ウ：不適切。安全な施工を損なう。
- エ：不適切。事故時に即連絡できるよう事前準備する。

総合解説：埋設物近接工事では管理者との情報共有と役割分担が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0087

4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

地下埋設物の位置を確認した後の現場管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．確認位置を管理者だけの記憶に残す。
- イ．マーキングを消して重機運転者へ伝えない。
- ウ．マーキング等で位置を作業者に明示し、近接範囲では慎重な掘削方法を採る。
- エ．埋設物の真上に重機アウトリガーを無検討で置く。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。作業者へ伝達する必要がある。
- イ：不適切。損傷事故の原因となる。
- ウ：適切。位置情報を施工現場で見える形にして共有する。
- エ：不適切。埋設物損壊・地盤支持への影響を検討する。

総合解説：情報を取得するだけでなく、現場で利用できる形に可視化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0088

4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

架空線に近接してクレーンやバックホウを使用する場合の対策として、最も適切なものはどれか。

- ア．運転者の感覚だけで接近する。
- イ．架空線を見えにくくする。
- ウ．ブーム旋回範囲を制限しない。
- エ．架空線位置を明示し、必要な離隔、防護、ブーム制限、誘導員等を計画する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。接触事故リスクが高い。
- イ：不適切。危険位置を明確化する。
- ウ：不適切。接触防止範囲を管理する。
- エ：適切。要綱解説はマーキング、ストッパー、絶縁材、誘導等を例示する。

総合解説：架空線事故は機械の立体的な作業範囲を管理して防止する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0089

4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：応用

高圧電線等の重要な架空線に近接する工事で、基本対策に加えて検討が推奨されるものはどれか。

- ア．センサー等によって危険な接近を検知する技術の活用。
- イ．電線位置の表示を全て外すこと。
- ウ．誘導員を減らして運転速度を上げること。
- エ．接触するまでブームを伸ばして距離を確認すること。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。要綱解説は重要架線では危険性検知技術の活用に努めるとしている。
イ：不適切。危険認知を低下させる。
ウ：不適切。安全対策を弱める。
エ：不適切。感電・損傷事故につながる。

総合解説：重要インフラ近接では多重防護によりヒューマンエラーを補う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0090

4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：応用

掘削中に図面にはない配管を発見した場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．不要配管と推定して直ちに切断する。
- イ．作業を停止して配管を保護し、種類・管理者を確認して関係者と施工方法を協議する。
- ウ．重機で動かしてから報告する。
- エ．写真を撮らず埋め戻して忘れる。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。ガス・電気等の可能性があり危険。
イ：適切。不明埋設物は損傷させず安全を確保して確認する。
ウ：不適切。損傷を生じ得る。
エ：不適切。確認・記録・協議が必要。

総合解説：不明物は「止める・守る・確認する」を基本にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0091

4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：応用

工事中に地下埋設物を誤って損傷した場合の初動として、最も適切なものはどれか。

- ア．そのまま埋め戻して作業を続ける。
- イ．漏えいの有無を確認せず喫煙する。
- ウ．作業を直ちに停止し、立入・火気等を管理して管理者・関係機関へ緊急連絡する。
- エ．第三者へ何も知らせず現場を離れる。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。被害拡大のおそれがある。
- イ：不適切。火災・爆発等の危険がある。
- ウ：適切。ガス・電気・通信・水道等の二次災害を防ぐ。
- エ：不適切。緊急連絡と区域管理が必要。

総合解説：埋設物損傷時は物件種別に応じた緊急措置と公衆保護を最優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0092

4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

架空線の下を大型工事車両が通行する場合の計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．荷台を上げたまま高さ確認せず通過する。
- イ．電線位置を運転者へ知らせない。
- ウ．接触してから通行可能高さを判断する。
- エ．車両・積荷の最大高さと架空線等の位置を確認し、必要に応じ高さ制限設備や誘導を設ける。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。架空線損傷の典型的要因。
- イ：不適切。危険情報を共有する。
- ウ：不適切。事故を起こす確認方法である。
- エ：適切。上空施設への接触を事前に防止する。

総合解説：車両・機械の高さを含む三次元の施工空間管理が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0093

4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

騒音規制法に基づく特定建設作業の騒音について、敷地境界線における基準として正しいものはどれか。

- ア．85デシベルを超えない（考え方：環境省告示では敷地境界線で85デシベルを超えないこととされる）
- イ．65デシベルを超えない（考え方：特定建設作業の騒音別条件の基準値を想定する）
- ウ．75デシベルを超えない（考え方：振動等と別制度の基準と区別する）
- エ．100デシベルを超えない（考え方：大きめの基準値を想定する）

答え・解説

正答：ア

ア：適切。環境省告示では敷地境界線で85デシベルを超えないこととされる。
イ：不適切。特定建設作業の騒音基準値ではない。
ウ：不適切。振動等と混同しない。
エ：不適切。基準より大きい。

総合解説：特定建設作業は音量だけでなく時間帯、作業時間、曜日等も規制対象となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0094

4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

特定建設作業の騒音低減策として、発生源対策に該当するものはどれか。

- ア．近隣へ何も知らせず作業時間を延長する。
- イ．低騒音型機械を採用し、不要なアイドリングを避ける。
- ウ．防音設備を撤去する。
- エ．機械を敷地境界へ近づける。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。周辺影響を増やす。
イ：適切。発生源そのものの騒音を小さくする対策である。
ウ：不適切。伝搬対策を弱める。
エ：不適切。受音側への影響を大きくしやすい。

総合解説：騒音対策は発生源低減、距離確保、防音壁、作業時間調整等を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0095

4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

防音壁を設置する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．騒音源と反対側へだけ設ける。
- イ．大きな隙間を意図的に設ける。
- ウ．騒音源と受音点の間を遮る位置に、隙間を抑えて設ける。
- エ．高さや位置は騒音伝搬と無関係である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。遮音効果を得にくい。
- イ：不適切。隙間から音が漏れる。
- ウ：適切。音の直接伝搬を遮る配置が基本である。
- エ：不適切。遮蔽条件が効果に影響する。

総合解説：防音壁は騒音源との位置関係、隙間、周辺反射等を考慮して計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0096

4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

振動を伴う建設作業の周辺対策として、最も適切なものはどれか。

- ア．振動苦情が出ても測定や工法見直しを行わない。
- イ．振動源を住宅側へ近づける。
- ウ．地盤条件は振動伝搬と無関係とする。
- エ．低振動工法の採用や機械配置の見直しを行い、必要に応じて周辺振動を測定する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。生活環境への影響を確認する必要がある。
- イ：不適切。影響増大につながりやすい。
- ウ：不適切。地盤条件で振動伝搬は変わる。
- エ：適切。発生源・伝搬条件を把握して低減する。

総合解説：振動対策では工法・機械・配置・施工時間を総合的に調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0097

4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

特定建設作業に伴う騒音の届出について、最も適切なものはどれか。

- ア．指定地域内の対象作業では、元請負人が所定の期限までに届出を行う。
- イ．下請作業員個人が必ず届出義務者となる。
- ウ．対象作業でも届出制度は存在しない。
- エ．工事完了後に初めて届出する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。騒音規制法の運用上、元請負人が届出義務者とされる。
イ：不適切。元請負人が統轄管理する実態を踏まえた制度である。
ウ：不適切。指定地域の対象作業には届出制度がある。
エ：不適切。事前の届出が必要である。

総合解説：法令対象かどうかを着工前に確認し、自治体の条例・届出様式も確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0098

4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：応用

騒音・振動の苦情が発生した場合の初動として、最も適切なものはどれか。

- ア．苦情内容を確認せず作業を継続する。
- イ．作業状況と測定値等を確認し、発生源を特定して工法・時間・設備を見直す。
- ウ．測定記録を削除する。
- エ．近隣へ責任転嫁する。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。問題を拡大させる。
イ：適切。事実確認と原因に応じた低減措置が必要である。
ウ：不適切。記録は原因分析に必要である。
エ：不適切。施工者側の対策検討が必要である。

総合解説：苦情対応は感覚論ではなく、作業記録・測定・現場条件を基に改善する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0099

4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

騒音測定を行う目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．機械の燃料残量だけを確認する。
- イ．測定結果に関係なく対策を固定する。
- ウ．施工による周辺への影響と対策効果を客観的に確認する。
- エ．近隣条件を無視して作業員の耳元だけを測る。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。騒音測定の目的ではない。
- イ：不適切。結果を対策へ反映する。
- ウ：適切。基準遵守や改善効果の検証に用いる。
- エ：不適切。環境騒音の評価位置を適切に設定する。

総合解説：測定は対象、位置、時間、作業内容を記録し、比較可能なデータとして扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0100

4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

振動規制法における特定建設作業の規制として、最も適切な説明はどれか。

- ア．振動の大きさだけが対象で時間帯は規制されない。
- イ．建設工事の振動は法規制の対象外である。
- ウ．指定地域という考え方はない。
- エ．振動の大きさに加え、作業時間帯、1日の作業時間、日数、曜日等も規制される。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。時間帯等も対象。
- イ：不適切。著しい振動を発生する特定建設作業は対象。
- ウ：不適切。指定地域での規制制度である。
- エ：適切。環境省の法運用では複数の観点から規制される。

総合解説：自治体ごとの指定地域・条例も確認して施工計画へ反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0101

4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：応用

近隣に病院や学校がある工事で騒音・振動管理を行う場合、最も適切なものはどれか。

- ア．利用時間や静穏を要する時間帯を確認し、工程・機械・作業時間を調整する。
- イ．法定基準内なら近隣用途を一切考慮しない。
- ウ．最も騒音の大きい作業を試験時間帯に集中させる。
- エ．事前周知を行わない。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。法令遵守に加えて周辺利用状況へ配慮する。
- イ：不適切。環境管理は周辺条件を含む。
- ウ：不適切。影響を増やす。
- エ：不適切。周知・調整はトラブル低減に有効。

総合解説：生活環境への影響は受音側の用途・時間によっても変化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0102

4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

騒音・振動対策を施工計画に組み込む時期として、最も適切なものはどれか。

- ア．苦情発生後だけ検討する。
- イ．工法・機械・工程を決める段階から検討し、必要に応じて施工中に見直す。
- ウ．工事完了後に検討する。
- エ．機械搬入後は一切変更しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。予防が重要。
- イ：適切。予防的に計画し、実測・周辺反応に応じて改善する。
- ウ：不適切。施工中管理にならない。
- エ：不適切。必要なら配置・時間・工法を見直す。

総合解説：環境管理もPDCAで計画・実施・確認・改善を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0103

4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

解体・はつり作業の粉じん対策として、最も適切なものはどれか。

- ア．強風時に粉じんを場外へ飛散させる。
- イ．集じん装置を停止する。
- ウ．散水・集じん・養生等により粉じんの発生と飛散を抑える。
- エ．粉じん発生源を囲わず乾式作業だけ続ける。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。第三者・作業者への影響が増える。
- イ：不適切。粉じん濃度を高める。
- ウ：適切。発生源抑制と飛散防止を組み合わせる。
- エ：不適切。状況に応じて湿潤化・集じん等を行う。

総合解説：粉じん対策は作業者保護と周辺環境保全の両方を目的とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0104

4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

散水による粉じん対策を行う場合の注意点として、最も適切なものはどれか。

- ア．散水量は多いほど無条件によい。
- イ．電気工具周辺でも防水を考えない。
- ウ．場外へ泥水を流出させる。
- エ．過剰な散水で濁水・滑り・電気設備への影響を生じないように管理する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。二次的な環境・安全問題を生む。
- イ：不適切。感電等の危険がある。
- ウ：不適切。濁水処理が必要。
- エ：適切。別のリスクを発生させない範囲で湿潤化する。

総合解説：一つの対策が別の災害要因にならないよう総合的に管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0105

4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

工事車両が場外へ泥を持ち出すおそれがある場合の対策として、最も適切なものはどれか。

- ア．タイヤ洗浄設備や場内清掃を行い、道路を汚した場合は速やかに清掃する。
- イ．道路へ泥を放置する。
- ウ．洗浄水を無処理で道路側溝へ流す。
- エ．車輪の泥付着を確認しない。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。公衆災害・道路汚損を防止する。
- イ：不適切。交通安全を損なう。
- ウ：不適切。濁水処理が必要。
- エ：不適切。搬出時に確認する。

総合解説：粉じん・濁水対策は現場境界での流出防止も重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0106

4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

掘削工事で発生する濁水の処理として、最も適切なものはどれか。

- ア．濁ったまま隣接河川へ直接流す。
- イ．沈砂・沈殿等で土粒子を除去し、排水条件を確認してから適切に放流する。
- ウ．油が混じっていても同じ方法で放流する。
- エ．排水先の基準や許可を確認しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。水環境へ悪影響を与える。
- イ：適切。濁水の性状と排水先条件に応じて処理する。
- ウ：不適切。油水分離等の追加処理が必要。
- エ：不適切。自治体・管理者条件を確認する。

総合解説：濁水処理では発生量、濁度、pH、油分等を必要に応じて確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0107 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

沈砂槽を設ける主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．排水の流速を上げて土砂を運び出す。
- イ．粉じんを空中へ拡散する。
- ウ．排水中の土砂を沈降させ、場外への流出を減らす。
- エ．建設機械の燃料を保管する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：不適切。目的と逆。
- イ：不適切。粉じん対策設備ではない。
- ウ：適切。土粒子を沈降分離する設備である。
- エ：不適切。用途が異なる。

総合解説：沈砂能力を維持するため堆積土砂の除去・清掃も必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0108 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：応用

コンクリート洗浄水など高アルカリ性のおそれがある水の取扱いとして、最も適切なものはどれか。

- ア．雨水と同じとみなし無条件に放流する。
- イ．pHを確認しない。
- ウ．側溝へ直接流すことを標準とする。
- エ．性状を確認し、必要な中和・回収等を行って適正に処理する。

答え・解説 正答：エ

- ア：不適切。水質影響がある。
- イ：不適切。必要に応じ測定する。
- ウ：不適切。適正処理が必要。
- エ：適切。濁りだけでなく化学的性状も管理する必要がある。

総合解説：現場排水は発生源ごとに性状が異なるため処理方法を分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0109

4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：応用

粉じんが場外へ飛散していることを巡視で確認した場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業を必要に応じて停止・縮小し、発生源と養生状態を確認して対策を強化する。
- イ．その日の作業終了まで放置する。
- ウ．近隣から見えない場所だけ清掃する。
- エ．飛散状況を記録しない。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。継続的な飛散を止めて是正する。
- イ：不適切。環境影響を拡大する。
- ウ：不適切。原因対策が必要。
- エ：不適切。是正経過を記録する。

総合解説：環境異常を確認したら迅速に原因除去と再発防止を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0110

4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

強風が予想される日に粉状材料を屋外で扱う場合の対策として、最も適切なものはどれか。

- ア．袋を開放したまま高所へ置く。
- イ．覆い・密閉容器・作業時間変更等で飛散を防止する。
- ウ．飛散防止ネットを外す。
- エ．風向を確認しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。飛散リスクが高い。
- イ：適切。風による場外飛散を予防する。
- ウ：不適切。対策を弱める。
- エ：不適切。周辺影響の判断に必要。

総合解説：気象条件に応じ作業方法を変更することも環境管理である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0111 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

濁水対策の効果を確認する方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．処理設備を設置しただけで確認しない。
- イ．雨天時だけ記録を削除する。
- ウ．排水の外観や必要な水質項目を確認し、沈殿設備の状態・放流状況を記録する。
- エ．排水先を確認しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：不適切。能力低下やオーバーフローを見逃す。
- イ：不適切。雨天時はむしろ重要。
- ウ：適切。処理設備が実際に機能しているか確認する。
- エ：不適切。放流先条件を把握する。

総合解説：環境設備も設置後の運転・点検・記録が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0112 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

建設工事から生じる産業廃棄物について、原則として排出事業者に該当する者は誰か。

- ア．工事現場の近隣住民。
- イ．材料メーカーだけ。
- ウ．産業廃棄物とは無関係な第三者。
- エ．発注者から直接工事を請け負う元請業者。

答え・解説 正答：エ

- ア：不適切。排出事業者ではない。
- イ：不適切。建設工事の排出事業者の原則ではない。
- ウ：不適切。責任主体ではない。
- エ：適切。環境省指針では建設工事の排出事業者は原則元請業者とされる。

総合解説：元請業者は下請任せにせず廃棄物処理全体を適正に管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0113

4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

建設廃棄物の処理を処理業者へ委託する場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．許可範囲を確認し、収集運搬・処分について所定の書面契約を行う。
- イ．口頭だけで無許可業者へ依頼する。
- ウ．下請業者へ全て任せ元請は確認しない。
- エ．処理業者の許可品目を確認しない。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。排出事業者は委託基準に従って適正処理を確保する。
- イ：不適切。書面契約と許可確認が必要。
- ウ：不適切。元請の処理責任は残る。
- エ：不適切。委託対象を許可範囲に含む必要がある。

総合解説：委託しても排出事業者の責任がなくなるわけではない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0114

4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

産業廃棄物管理票（マニフェスト）の主な目的はどれか。

- ア．作業員の勤怠を管理すること。
- イ．委託した産業廃棄物の流れと処理終了を排出事業者が確認すること。
- ウ．建設機械の燃費を記録すること。
- エ．工程表を作成すること。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。用途が異なる。
- イ：適切。廃棄物の処理経路と終了確認に用いる。
- ウ：不適切。用途が異なる。
- エ：不適切。工程管理書類ではない。

総合解説：マニフェスト又は電子マニフェストにより適正処理を追跡する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0115

4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

建設廃棄物の現場分別として、最も適切なものはどれか。

- ア．全て混合して処理量を増やす。
- イ．危険物と一般廃棄物を同一容器へ入れる。
- ウ．種類ごとの分別排出を原則とし、容器・置場・表示を整える。
- エ．分別区分を作業員へ周知しない。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。再資源化・処理を困難にする。
- イ：不適切。安全・処理上不適切。
- ウ：適切。再資源化と適正処理のため分別を徹底する。
- エ：不適切。分別の実効性が下がる。

総合解説：分別しやすい現場レイアウトと表示が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0116

4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

建築物の解体現場でコンクリート塊、木材、金属くず等が発生した。建設副産物の管理として最も適切なものはどれか。

- ア．処分先が決まるまで全ての副産物を混合し、現場の一角に無表示で積み上げる。
- イ．再資源化できる材料も一般廃棄物として一括処分し、種類別の数量を記録しない。
- ウ．現場外へ搬出した時点で元請の管理対象ではなくなるため、委託先や処理状況を確認しない。
- エ．発生段階で種類ごとに分別し、再資源化・適正処理ができるよう保管・搬出経路を管理する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。混合保管は再資源化を妨げ、飛散・流出や誤搬出の原因にもなる。
- イ：不適切。再資源化可能な品目は分別し、搬出量や処理先を追跡できるようにする。
- ウ：不適切。委託後も契約・マニフェスト等により適正処理を確認することが重要である。
- エ：適切。建設副産物は発生抑制、分別、再使用・再資源化、適正処理を施工計画と一体で管理する。

総合解説：建設副産物管理では、発生抑制から分別保管、搬出、再資源化・最終処分までの流れを追跡できる状態にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0117 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

建築物を新築する計画で、建設リサイクル法の対象建設工事となる床面積の基準として正しいものはどれか。

- ア．500 m² 以上（新築・増築の対象床面積基準を採る）
- イ．50 m² 以上（小規模工事まで対象とする想定）
- ウ．80 m² 以上（解体工事の床面積基準を準用する）
- エ．5,000 m² 以上（大規模工事だけを対象とする想定）

答え・解説 正答：ア

ア：適切。国土交通省資料では新築・増築は500m² 以上。
イ：不適切。基準値ではない。
ウ：不適切。解体工事の基準と混同しない。
エ：不適切。基準値ではない。

総合解説：対象建設工事かどうかを契約・着工前に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0118 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

建設副産物の管理で優先すべき考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．使える材料も全て廃棄する。
- イ．発生抑制、再使用・再生利用を進め、最終処分量を減らす。
- ウ．分別せず埋立てを最優先する。
- エ．発生量を把握しない。

答え・解説 正答：イ

ア：不適切。廃棄物発生量を増やす。
イ：適切。資源循環と廃棄物減量化の基本である。
ウ：不適切。再資源化を妨げる。
エ：不適切。計画・改善ができない。

総合解説：施工計画段階から資材寸法・梱包・分別動線等を検討すると発生抑制につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0119 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

廃棄物置場の管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．容器表示をせず混合する。
- イ．風で飛びやすい廃材を無養生で積む。
- ウ．種類を表示して区分し、飛散・流出・悪臭・火災等を防止する。
- エ．通路を塞ぐように保管する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：不適切。誤投入や不適正処理の原因。
- イ：不適切。場外飛散を招く。
- ウ：適切。適正保管と現場安全を同時に確保する。
- エ：不適切。避難・搬出を妨げる。

総合解説：廃棄物保管も安全・環境・物流計画の一部である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0120 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：応用

処理委託した建設廃棄物について処理終了の確認ができない場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．確認せず完了扱いにする。
- イ．マニフェスト情報を破棄する。
- ウ．処理業者からの連絡を待つだけで何もしない。
- エ．処理状況を速やかに確認し、必要な法定対応を行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：不適切。不適正処理を見逃す。
- イ：不適切。追跡記録が必要。
- ウ：不適切。期限超過等には確認・報告が必要となる。
- エ：適切。排出事業者は処理終了まで確認する責任を持つ。

総合解説：廃棄物管理は搬出した時点で終わらず、最終的な処理確認まで継続する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0121

4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

作業員配置を決める際の基本として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業内容、必要資格・技能、経験、健康状態、作業量を考慮して配置する。
- イ．人数だけを満たせば資格を確認しない。
- ウ．未経験者だけで危険作業を行う。
- エ．健康状態は作業適性と無関係とする。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。安全・品質・工程に適した人員構成が必要。
- イ：不適切。資格・技能が必要な作業がある。
- ウ：不適切。指導・監督体制が必要。
- エ：不適切。作業適性に影響する。

総合解説：配置は「人数」ではなく能力と役割の組合せで考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0122

4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

法令上、作業主任者の選任が必要な作業を行う場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．資格の有無に関係なく最年少者を選ぶ。
- イ．必要な資格を有する者から作業主任者を選任し、所定の職務を行わせる。
- ウ．作業主任者を置かず作業員各自に判断させる。
- エ．氏名・職務を関係作業者へ知らせない。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。所定資格が必要。
- イ：適切。危険作業では法令に基づく作業主任者等の配置が必要。
- ウ：不適切。選任義務がある作業がある。
- エ：不適切。指揮系統を明確にする。

総合解説：危険作業は資格者・作業主任者・指揮者の役割を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0123

4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

新規入場者を配置する際の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．説明せず直ちに単独作業させる。
- イ．避難経路を知らせない。
- ウ．現場ルール、危険箇所、避難方法、作業手順等を教育したうえで配置する。
- エ．現場固有ルールは経験者なら不要とする。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。事故リスクが高い。
- イ：不適切。緊急時対応に必要。
- ウ：適切。現場固有の危険・ルールを理解させる。
- エ：不適切。他現場と条件が異なる。

総合解説：新規入場時教育は共通認識をつくる基本的な安全管理である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0124

4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

複数の下請事業者が同一場所で作業する場合の配置として、最も適切なものはどれか。

- ア．各社が独立して無調整で作業する。
- イ．上下同時作業を無条件に行う。
- ウ．誰が作業を指揮するか決めない。
- エ．作業間の連絡調整を行い、指揮命令系統と立入範囲を明確にする。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。接触・落下等の危険が増える。
- イ：不適切。危険な重複を避ける。
- ウ：不適切。指揮系統を明確にする。
- エ：適切。混在作業では相互干渉を管理する必要がある。

総合解説：混在作業では工程調整と安全調整を同時に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0125

4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

高所での危険作業に経験の浅い作業員を配置する場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．必要な教育を行い、技能・経験に応じて熟練者の指導下で配置する。
- イ．初日から単独で最も危険な箇所へ配置する。
- ウ．能力確認を行わない。
- エ．墜落防止設備の説明を省略する。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。経験に応じた指導・監督が必要である。
- イ：不適切。リスクが高い。
- ウ：不適切。配置判断に必要。
- エ：不適切。安全設備の使用方法を理解させる。

総合解説：人的要因を考慮し、無理のない役割分担と教育を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0126

4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

長時間作業が続き疲労が蓄積している班の配置見直しとして、最も適切なものはどれか。

- ア．疲労している作業員へさらに危険作業を集中させる。
- イ．休憩・交替・作業量調整を行い、注意力低下による事故を防ぐ。
- ウ．休憩を削って工程だけを優先する。
- エ．体調申告を禁止する。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。事故リスクが高まる。
- イ：適切。疲労は判断力・反応速度低下につながる。
- ウ：不適切。安全確保が必要。
- エ：不適切。健康異常の早期把握を妨げる。

総合解説：工程管理と労務管理は切り離さず、疲労をリスク要因として扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0127

4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：応用

有資格者しか行えない業務について、その日の有資格者が欠勤した場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．無資格者へ一時的に代行させる。
- イ．資格証確認を省略する。
- ウ．代替の有資格者を確保できなければ、その業務を行わない。
- エ．作業員の自己申告だけで資格ありと扱う。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。資格要件違反となる。
- イ：不適切。配置前確認が必要。
- ウ：適切。法令上必要な資格要件を満たすことが前提。
- エ：不適切。客観的確認を行う。

総合解説：工程遅延より法令・安全条件の遵守を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0128

4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

作業班の指揮系統として、最も適切なものはどれか。

- ア．複数者が同時に異なる指示を出す。
- イ．合図方法を決めない。
- ウ．作業変更を班員へ知らせない。
- エ．作業責任者・合図者等の役割を明確にし、指示を一本化する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。混乱を招く。
- イ：不適切。統一した合図が必要。
- ウ：不適切。変更内容の周知が必要。
- エ：適切。誤操作・認識違いを防止する。

総合解説：人員配置には役割とコミュニケーション設計も含まれる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0129

4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

単独作業の配置を検討する場合、最も適切なものはどれか。

- ア．作業リスクと緊急時の連絡・救助可能性を確認し、必要なら単独作業を避ける。
- イ．危険作業ほど単独作業を優先する。
- ウ．連絡手段を持たせない。
- エ．所在確認を行わない。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。異常時に救助・通報できる体制が必要。
- イ：不適切。重篤化リスクがある。
- ウ：不適切。緊急対応が遅れる。
- エ：不適切。安否確認が必要。

総合解説：配置計画では異常時に助けを呼べるかまで考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0130

4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

重量物の人力運搬作業に作業員を配置する際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．体格に関係なく一人で運ばせる。
- イ．重量・形状・経路を確認し、機械化や複数人作業を含め無理のない方法を選ぶ。
- ウ．運搬経路の段差を確認しない。
- エ．重量を知らせず作業させる。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。過負荷となる。
- イ：適切。腰痛・挟まれ等のリスクを減らす。
- ウ：不適切。転倒等の原因。
- エ：不適切。作業計画に必要。

総合解説：作業員配置は作業負荷と補助設備を含めて検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0131

4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：応用

外国人労働者や日本語理解が十分でない作業者を配置する場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．日本語だけを一度読み上げて理解確認しない。
- イ．合図を班ごとに異なるものにする。
- ウ．図解・多言語表示等を活用し、危険情報と作業手順が実際に理解されたことを確認する。
- エ．危険表示を文字だけに限定する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。理解不足を見逃す。
- イ：不適切。共通合図が必要。
- ウ：適切。伝達だけでなく理解できたかを確認する。
- エ：不適切。図記号等も有効。

総合解説：安全情報は受け手が理解できる形で伝えることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0132

4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：応用

作業員配置を日々見直すべき場面として、最も適切なものはどれか。

- ア．一度決めた配置は工事完了まで固定する。
- イ．事故が起きても配置を見直さない。
- ウ．危険作業が追加されても人員構成を確認しない。
- エ．工程変更、天候悪化、欠員、作業内容変更などでリスク条件が変わったとき。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。施工条件は変化する。
- イ：不適切。再発防止が必要。
- ウ：不適切。必要資格・人数を再確認する。
- エ：適切。条件変化に応じて配置と監督体制を再評価する。

総合解説：労務配置もリスクアセスメントと連動して更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0133

4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

2025年6月1日施行の改正労働安全衛生規則で、熱中症を生ずるおそれのある作業の目安として示される条件はどれか。

- ア．WBGT28 又は気温31 以上の作業場で、継続1時間以上又は1日4時間を超えることが見込まれる作業。
- イ．WBGT20 未満の事務作業すべて。
- ウ．気温25 以上なら作業時間に関係なく全て。
- エ．気温35 以上で8時間連続作業だけ。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。改正省令の対象作業の目安である。
- イ：不適切。示された条件と異なる。
- ウ：不適切。示された温度・時間条件と異なる。
- エ：不適切。条件を狭くし過ぎている。

総合解説：対象作業では報告体制と重篤化防止手順を事前に整備・周知する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0134

4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

改正労働安全衛生規則で求められる熱中症の早期発見体制として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人が意識を失うまで報告させない。
- イ．自覚症状のある作業者や異常を見つけた者が報告できる連絡先・担当者を定め、周知する。
- ウ．報告先を日ごとに秘密にする。
- エ．体調異常を見つけても上司へ伝えない。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。重篤化を招く。
- イ：適切。早期発見のための報告体制整備と周知が義務付けられた。
- ウ：不適切。関係作業者が利用できる必要がある。
- エ：不適切。発見者からの報告も対象。

総合解説：熱中症は本人の自覚だけに頼らず、周囲からの発見・報告も重視する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0135

4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：応用

熱中症のおそれがある作業者を発見した場合の初期対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業を続けさせて様子を見る。
- イ．一人で休ませ連絡しない。
- ウ．作業から離脱させ、身体を冷却し、必要に応じて医師の診察・処置や救急搬送につなげる。
- エ．意識障害があっても水だけ飲ませる。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。重篤化のおそれがある。
- イ：不適切。見守り・連絡体制が必要。
- ウ：適切。改正規則が想定する重篤化防止の基本手順である。
- エ：不適切。緊急搬送を検討すべき状態である。

総合解説：異常を感じたら早期に作業離脱し、冷却と医療判断へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0136

4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

WBGT値を熱中症管理に用いる理由として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業員の資格を判定する指標だから。
- イ．騒音レベルを測る指標だから。
- ウ．足場強度を評価する指標だから。
- エ．気温だけでなく湿度や輻射熱等を含む暑熱ストレスの評価に利用できる。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。資格判定指標ではない。
- イ：不適切。騒音とは別。
- ウ：不適切。構造強度指標ではない。
- エ：適切。WBGTは暑熱環境による熱ストレス評価の指標である。

総合解説：現場では予報だけでなく必要に応じ作業場所でWBGTを測定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0137 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

高温多湿作業場所の休憩環境として、最も適切なものはどれか。

- ア．作業場所の近くに日陰・冷房等の涼しい休憩場所と身体冷却手段を設ける。
- イ．直射日光下だけを休憩場所にする。
- ウ．冷却手段を置かない。
- エ．休憩場所を作業場所から極端に遠くし利用しにくくする。

答え・解説 正答：ア

- ア：適切。厚労省要綱は涼しい休憩場所や冷却設備を推奨する。
- イ：不適切。体温低下を妨げる。
- ウ：不適切。冷却手段が有効。
- エ：不適切。利用しやすい近隣配置が望ましい。

総合解説：休憩は時間だけでなく、実際に身体を冷却できる環境を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0138 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

熱中症予防の水分・塩分摂取として、最も適切なものはどれか。

- ア．のどが渇くまで一切飲まない。
- イ．自覚症状の有無にかかわらず、作業前後と作業中に定期的な摂取を行う。
- ウ．水分摂取を作業終了まで禁止する。
- エ．大量のアルコールを水分補給として用いる。

答え・解説 正答：イ

- ア：不適切。予防的摂取が重要。
- イ：適切。脱水は自覚以上に進行することがある。
- ウ：不適切。熱中症リスクを高める。
- エ：不適切。適切な水分補給ではない。

総合解説：個人の健康条件により塩分制限等がある場合は医師等へ相談する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0139 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

暑熱順化について、最も適切なものはどれか。

- ア．初日から最大負荷で長時間作業すれば早く安全になる。
- イ．長期間暑熱作業を離れても順化状態は永久に維持される。
- ウ．暑熱環境へ徐々に慣らすことで、熱中症リスク低減に役立つ。
- エ．暑熱順化は熱中症と無関係である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：不適切。未順化時は負荷を抑える。
- イ：不適切。中断で順化は失われる。
- ウ：適切。厚労省要綱は計画的な暑熱順化期間を推奨する。
- エ：不適切。発症リスクに影響する。

総合解説：梅雨明け、休暇明け、新規入場などは未順化を想定して作業負荷を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0140 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

夏季朝礼での健康管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．体調申告を禁止する。
- イ．発熱があっても高温作業へ優先配置する。
- ウ．前日の飲酒や睡眠は熱中症と無関係とする。
- エ．睡眠不足、発熱、下痢、二日酔い等の体調を確認し、必要に応じて作業内容を変更する。

答え・解説 正答：エ

- ア：不適切。早期把握を妨げる。
- イ：不適切。リスクが高い。
- ウ：不適切。健康状態は重要なリスク因子。
- エ：適切。脱水や体調不良は熱中症リスクを高める。

総合解説：環境管理だけでなく作業者個人の健康状態も日々確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0141 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：応用

熱中症対策手順を事前に作成する際、含める内容として最も適切なものはどれか。

- ア．作業離脱、身体冷却、医療機関受診、緊急連絡網、搬送先の連絡先・所在地等。
- イ．気合いで作業継続する方法。
- ウ．症状を隠す方法。
- エ．搬送先を決めず当日探す方法。

答え・解説 正答：ア

- ア：適切。2025年改正で重篤化防止の実施手順と周知が求められた。
- イ：不適切。安全対策ではない。
- ウ：不適切。早期発見を妨げる。
- エ：不適切。事前に定める必要がある。

総合解説：緊急時は判断時間が限られるため、連絡・搬送手順を平常時に定める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0142 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：基礎

労働災害が発生した直後の対応として、最も優先すべきものはどれか。

- ア．原因調査のため危険区域へ全員を集める。
- イ．作業を止め、二次災害を防止しながら被災者の救命・救護と通報を行う。
- ウ．写真撮影を救命より先に行う。
- エ．作業を継続したまま被災者だけ移動する。

答え・解説 正答：イ

- ア：不適切。被害拡大のおそれがある。
- イ：適切。救命と二次災害防止が最優先である。
- ウ：不適切。救護が先。
- エ：不適切。危険源を停止・隔離する必要がある。

総合解説：災害時は安全確保、救護、通報、現場保全・報告の順で対応する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0143

4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：応用

倒壊のおそれがある場所で被災者を発見した場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．無防備で全員が危険区域へ入る。
- イ．二次崩壊の可能性を確認しない。
- ウ．救助者自身の安全を確保し、必要な支保・専門救助を行ってから救出する。
- エ．重機を合図なしで動かす。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。二次災害を招く。
- イ：不適切。安定確認が必要。
- ウ：適切。救助者が新たな被災者にならないことが重要。
- エ：不適切。統一した指揮・合図が必要。

総合解説：救助活動もリスクアセスメントを行い、安全な方法を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0144

4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：基礎

現場の緊急連絡体制として、最も適切なものはどれか。

- ア．連絡先を責任者一人だけが記憶する。
- イ．夜間・休日の連絡方法を決めない。
- ウ．救急車を呼ぶ基準を全く決めない。
- エ．消防・救急、現場責任者、発注者等の連絡先と役割を整理し、見やすい場所に周知する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。不在時に機能しない。
- イ：不適切。施工時間に応じて体制を整える。
- ウ：不適切。判断手順を事前に整理する。
- エ：適切。誰でも迅速に連絡できる体制が必要。

総合解説：緊急連絡網は定期的に更新し、現場条件変更へ追従させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0145

4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

火災が発生した際の初期対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．周囲へ知らせ、119番通報・避難を行い、安全に可能な範囲で初期消火する。
- イ．煙の中へ単独で入り続ける。
- ウ．避難経路を塞いで消火器を探す。
- エ．通報せず火が大きくなるまで待つ。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。人命安全を優先して通報・避難・初期消火を行う。
- イ：不適切。危険が高い。
- ウ：不適切。避難経路確保が重要。
- エ：不適切。早期通報が必要。

総合解説：初期消火は安全に実施できる範囲に限定し、無理な消火をしない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0146

4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

地震発生時の建設現場対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．点検せず直ちに通常作業を再開する。
- イ．揺れがおさまった後、足場・クレーン・山留め等の安全を点検し、異常があれば使用を停止する。
- ウ．落下物のある区域へ作業員を集める。
- エ．余震を考慮しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。二次災害のおそれがある。
- イ：適切。仮設構造物等の損傷を確認してから再開する。
- ウ：不適切。安全な場所へ避難する。
- エ：不適切。余震への警戒が必要。

総合解説：地震後は見た目だけでなく接合・支持・変形等を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0147

4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

AEDを用いる可能性に備えた現場管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．AEDを施錠して責任者だけが取り出せるようにする。
- イ．設置場所を知らせない。
- ウ．設置場所・使用方法・救急連絡を周知し、緊急時に迅速に使える状態を保つ。
- エ．点検表示を確認しない。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。利用遅延につながる。
- イ：不適切。周知が必要。
- ウ：適切。救命機器は緊急時にすぐ使用できることが重要。
- エ：不適切。使用可能状態を確認する。

総合解説：救急設備は「ある」だけでなく「使える」体制を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0148

4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

重大災害発生後の現場保全として、最も適切なものはどれか。

- ア．証拠となる設備を直ちに廃棄する。
- イ．記録を改ざんする。
- ウ．被災状況を関係者へ報告しない。
- エ．救命・二次災害防止に必要な変更を除き、原因調査に必要な状況を記録・保全する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。原因調査を妨げる。
- イ：不適切。記録は正確に残す。
- ウ：不適切。所定の報告が必要。
- エ：適切。救命を優先したうえで原因究明に必要な情報を保全する。

総合解説：再発防止には事実に基づく原因分析が不可欠である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0149

4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

緊急避難経路の管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．常時通行可能な状態を保ち、表示・照明・集合場所を作業員へ周知する。
- イ．資材置場として使用する。
- ウ．避難口を施錠して開けられないようにする。
- エ．工程変更で通路を塞いでも代替経路を設けない。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。緊急時に迷わず避難できる状態が必要。
- イ：不適切。避難を妨げる。
- ウ：不適切。緊急時に使用できない。
- エ：不適切。代替経路と周知が必要。

総合解説：避難経路は施工進捗で変わるため定期的に見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0150

4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：応用

災害対応訓練を行う目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．形式的に実施し問題点を記録しない。
- イ．連絡・避難・救護の手順を実際に確認し、問題点を改善する。
- ウ．実際の連絡先を使えるか確認しない。
- エ．訓練結果を次回計画へ反映しない。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。改善につながらない。
- イ：適切。手順の実効性を検証し改善するために行う。
- ウ：不適切。緊急時に機能しない可能性がある。
- エ：不適切。PDCAで改善する。

総合解説：災害時対応は文書だけでなく訓練で実効性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21